



2025年6月18日

各 位

|         |                 |
|---------|-----------------|
| 上場会社名   | <b>コーセル株式会社</b> |
| 代 表 者 名 | 代表取締役社長 齊藤 盛雄   |
| (コード番号  | 6905 東証プライム市場)  |
| 問い合わせ先  | 執行役員 経理部長 高島 大介 |
| TEL     | 076-432-8149    |

### 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組みについて

当社は、2025年6月18日開催の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組みについて、現状分析を行い、今後の取り組み方針を決議いたしましたのでお知らせいたします。

詳細につきましては、添付の資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組み」をご参照ください。

以 上

A pair of hands, belonging to a person in a blue business suit, are gently cupping a small green printed circuit board (PCB). The PCB is populated with various electronic components, including two large black electrolytic capacitors, several smaller resistors, and integrated circuits. The background is a soft-focus blue with white bokeh light spots.

ここに **COSEL**

資本コストや株価を意識した経営の  
実現に向けた取り組み

**コーセル株式会社**

2025年 6月18日

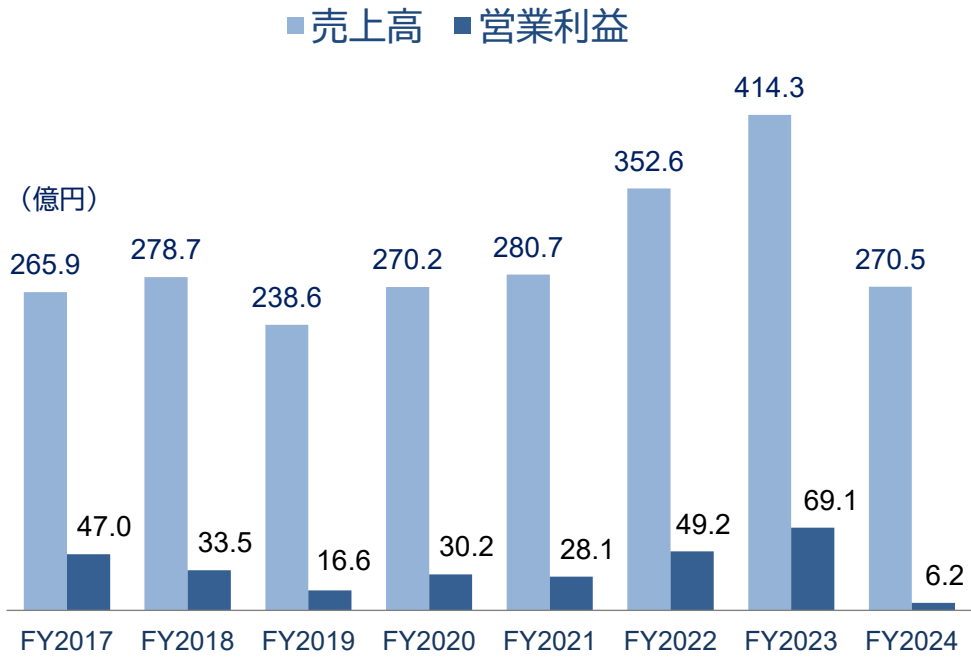
ROEが安定して資本コストを上回る状況を継続的に実現する

実効的な成長投資と積極的な株主還元を両立させる

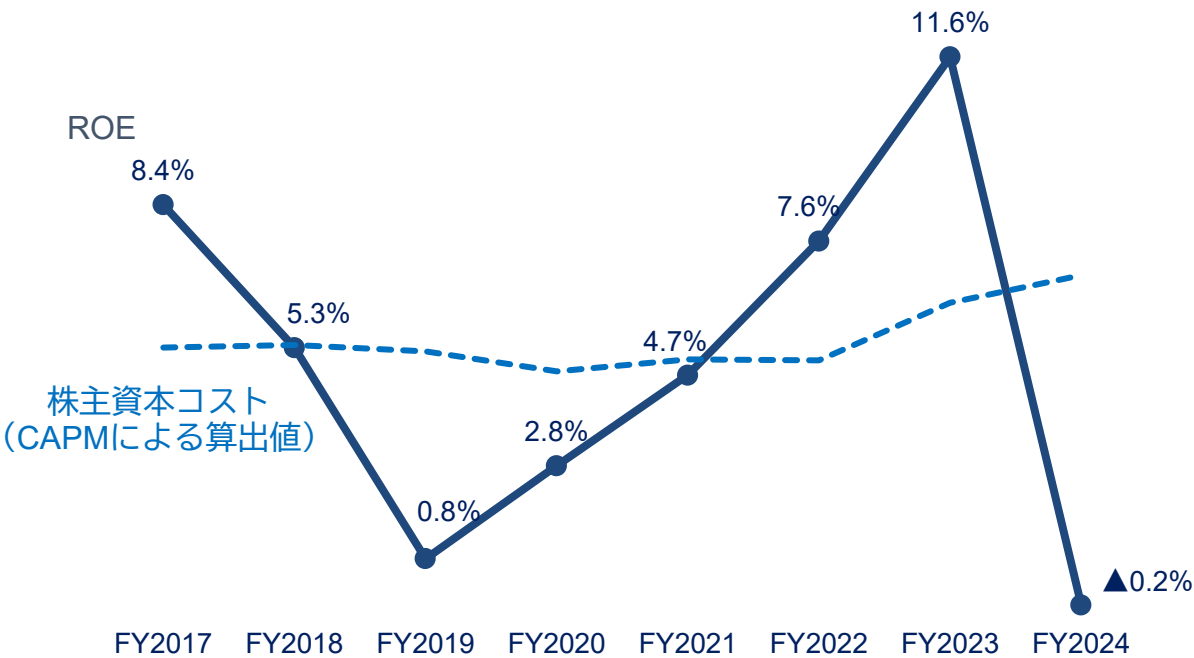
株主・投資家との対話を大切にし、IR活動の強化に努める

- FY2023までの半導体製造装置市況の好調により、売上と営業利益は拡大を続けた
- FY2024は前期の反動と顧客の在庫調整の長期化により、受注減少が業績に影響し低下した
- ROEはFY2022・FY2023で株主資本コストを上回ったが、FY2024は業績悪化により大幅に下回った

業績推移

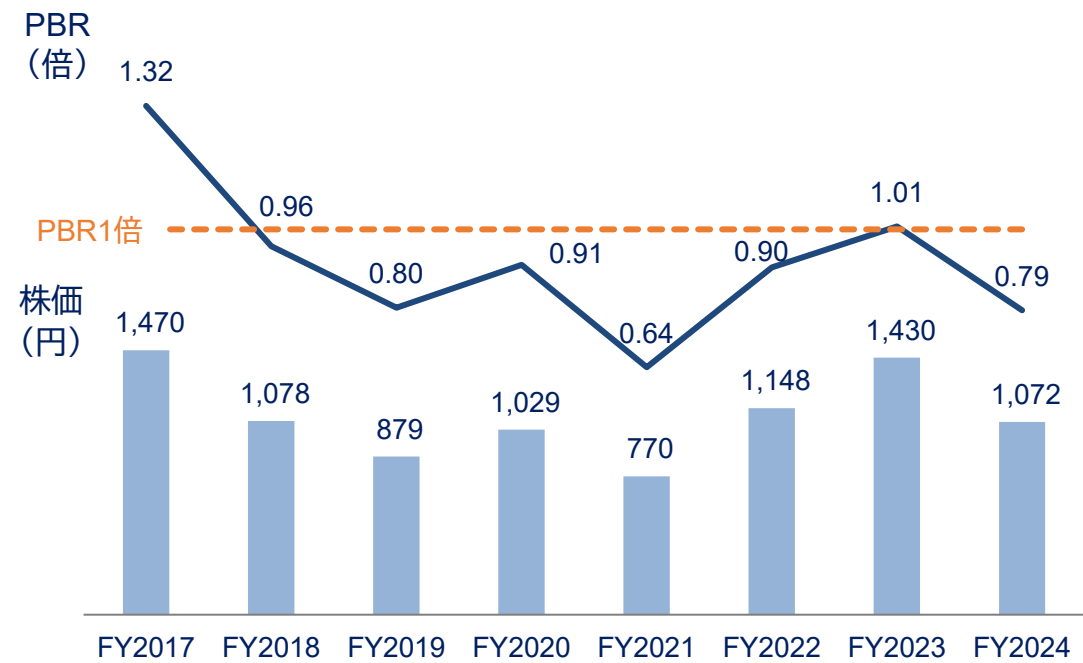


ROEと株主資本コスト

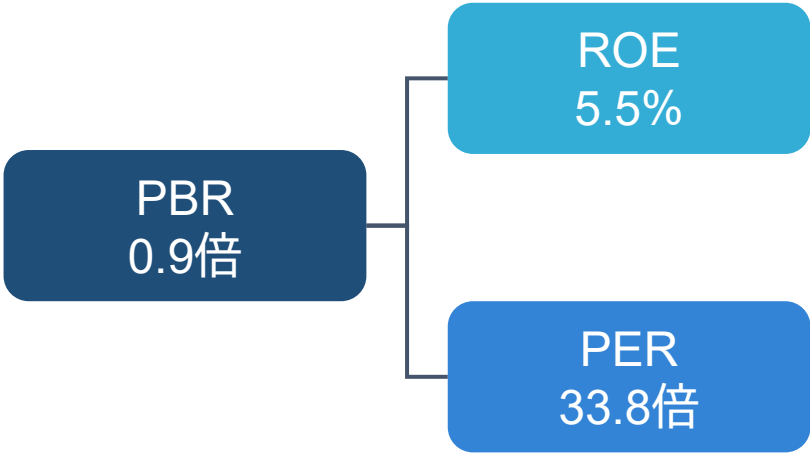


PBRをROEとPERに分解し、5年平均で見ると、投資家の期待を反映するPERは一定水準を維持している一方、資本収益性を示すROEは市場の期待水準に達していない

PBRと株価推移



PBR分析



※ PBR・ROE・PERは、FY2019-FY2023の5年平均

株主・投資家からは、企業価値向上に向けた取り組みについて様々な意見が寄せられている

### ■ 株主・投資家との対話を通じて出された主な意見

#### 株価対策・株主還元の 考え方等

- 最適キャッシュ水準を示し、余剰資金を配当やM&A投資など、キャッシュアロケーションを明確にすべき
- 成長投資について、目的・計画・効果を透明化すべき
- 資本コストに求める水準はROE 8%以上
- ROEを論じるより先に業績を伸ばしていくことが重要

#### IR活動や情報開示の 不足等

- 投資家とのコミュニケーション機会を増やし、会社の理解を深めさせることにより資本コストが下がる
- 将来を期待させる成長戦略を持ち、適切に市場に伝える

1. 適切なキャッシュアロケーションを通じて、成長投資と株主還元を両立させる
2. 資本収益性（ROE）向上に向けて、実効的な成長投資を実施する
3. PERの維持・向上を目指し、株主還元を強化する
4. 株主・投資家との対話を推進し、その内容を経営にフィードバックする体制を構築してIR活動を強化する

# 取り組み1 適切なキャッシュアロケーション

事業が創出するキャッシュを、適切なキャッシュアロケーションで  
成長投資と株主還元に分ける

(参考) 現状のキャッシュアロケーション

営業  
キャッシュフロー

3年間累計  
(FY2023 - 2025)

110億円

FY2023・FY2024実績 +  
FY2025計画で試算

機動的な株主還元

配当 63億円

事業投資（設備・IT）  
45億円

経営基盤強化  
社会的責任投資



資本収益性を向上させ、資本効率を高めるための成長投資を実施する  
実効的な成長投資は、事業のキャッシュ創出力を高め、そのキャッシュがさらなる成長投資につながる好循環を生み出す

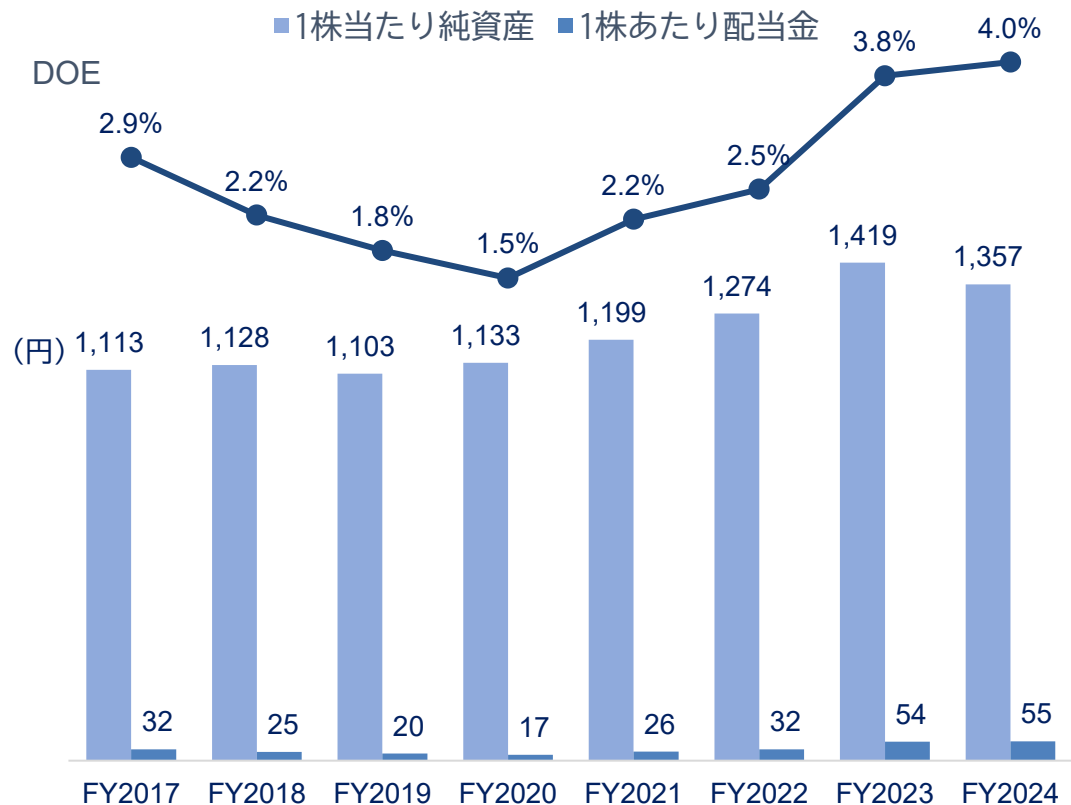
### 今後の成長投資

- 生産能力増強
- 本社工場増改築
- 新製品拡充・開発スピードアップ
- IT・DX投資
- 人財育成・職場環境
- カーボンニュートラル

## 取り組み3 株主還元の強化

株主資本配当率（DOE）3.5%を下限とする累進配当を基本方針とし、  
継続的かつ安定的な剰余金の配当を実施する  
継続的で安定的な配当を行うことにより、投資のリスクが低減し、資本コストが削減される

株主還元、DOEの推移



### 配当方針

- 継続的・安定的な配当の実施  
DOE 3.5%以上
- 累進配当（原則として減配せず配当の維持もしくは増配を行う配当政策）
- 成長のための将来投資とのバランスを考慮しながら、資本効率向上を目指した機動的な株主還元

### 2025年5月期 配当（1株当たり）

中間配当 27円（2025年2月支払済）  
期末配当 28円（2025年7月下旬予定）  
年間配当 55円

FY2024より配当方針変更  
変更前：配当性向（連結）35%を目途とする  
変更後：株主資本配当率（DOE）3.5%を下限とする

- 株主・投資家との対話内容を経営にフィードバックし、その開示内容の充実を図る
- 対話において、経営陣および取締役会が主体的かつ積極的に関与し、IR活動を強化する  
株主・投資家に対して適時に事業状況を開示することで、投資リスクが低減し資本コストが削減される

### 経営へのフィードバック体制の構築

- 建設的な対話による社内フィードバックと経営への導入
- 対話内容、導入状況、成果の動向に関する開示の充実

### IR活動の強化

- 対話への経営陣・取締役会による主体的かつ積極的な関与
- IRツールの充実（IRサイト、決算説明資料（和英）、適時開示など）
- 投資家とのミーティング強化、個人投資家説明会の実施



[将来に関する記述についての注意事項]

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。